

看護学部 看護学科（令和6年度以降入学生）履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の編成、教育内容】

看護学部のカリキュラム編成においては、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）で示された卒業時に修得すべき能力を、学生が4年間でバランスよく、確実に修得できるように科目を配置しています。また、教育の方法は、学生の主体性を引き出し、学生自らが進んで調べて考える「アクティブラーニング」を主体としています。したがって教員には、「アクティブラーニング」の理念を理解し、教授方法を修得すること、学習環境を整え、明確な課題と学習目標を設定して学生の学習を支援することが求められています。

- (1) ケアすることの価値について熟考し、自分自身の実践の核となる看護觀を構築できるように支援する。
- (2) 教養科目を充実させ、安定した人間性と高い倫理觀の醸成や、人間・社会・環境の理解など学際的な知識の理解を支援する。
- (3) 健康が人々の生活や文化に密接に関係していること、生活を支援することがどういったことを深く理解して、生活に着目した看護が実践できるよう講義・演習・実習の繋がりを重視した教育を行う。
- (4) 多様な実習の場を提供し、体験学習を通して、地域におけるケアの重要性を認識できる教育を行う。
- (5) 他職種と連携・協働する重要性とその方法を理解するために、実際の活動を通して実践的に学べるよう支援する。
- (6) グローバルな視野で世界の健康課題を理解できるよう異文化体験、海外研修等の教育内容を提示する。
- (7) 学生が看護を基礎とした自らのキャリアデザインを描けるように支援する。

【教育方法】

- (1) 常に看護とは何かを探求し続け、新たな看護の創造に貢献できる人材を育てます。専門科目において、大学基礎演習（看護基礎ゼミ）、看護と倫理、看護研究法、課題研究、統合実習などの看護について探し、思考することを学ぶ科目を、学生の学習レベルに応じて段階的に配置します。
- (2) 人を生活者として理解するために、1年次から実習を配置します。2年次・3年次では、病気や健康障害による生活への影響と人々の反応に着目した看護の原理と方法を学ぶ実習科目を配置します。
- (3) 多職種との連携や協働について学び、看護の責務と役割を理解するために、一般教養科目、専門科目における講義、実習を配置します。
- (4) 学習者の主体性を引き出し、自立して行動できる力を育てる教育を行います。講義・演習科目において、アクティブラーニングを推進します。また、看護実践でのあらゆる状況、患者の状態を学習者の学習準備状況に合わせて再現した環境での体験型学習であるシミュレーション教育を行います。

【学修成果の評価方法】

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。具体的な評価指標は次の4項目。

- (1) 授業目標への到達度の総合的評価：各科目において、定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等
- (2) 看護実践力評価：演習科目、実習科目における取り組み、看護師国家試験模試、看護師国家試験
- (3) 半年ごとの自己省察と目標修正・設定（学修ポートフォリオおよび上記(1)(2)をもとに、担任教員またはチーフアドバイザー、実習担当教員と面談を行う）
- (4) 就職先アンケート、卒業生アンケート

